

そんなり通信 vol.60

地域活動支援センターMネット 広報誌 H26年8月号

実施主体：社会福祉法人Mネット東遠

場所：菊川市赤土 1660-1 TEL 0537-73-1020 FAX 0537-73-1034

みなさん暑い日が続きますがいかがお過ごしですか？

7月のサロン活動の報告と8月のサロンの予定をお知らせします。

7月サロン活動



7月14日（月）御前崎灯台・なぶら市場へ外出
当日の朝大雨でしたが、出発前には晴れ間が見え
快晴の中外出できました。

7月22日（火）蒸しパン作り・平成26年度サロンの
年間計画を決めました。

20名の参加者が集まり、サロンで行きたいところ、
食べたいものなど多くの意見を出し合いました。



8月サロン予定

今月のサロンは以下の内容で行ないます。参加をご希望の方は、1週間前までに地域活動支援センターMネット（Tel0537-73-1020）にお申し込み下さい。参加者は配車・スペースの都合上15名程度とさせていただきますので、希望者多数の際にはご希望に添えない場合がございます。

日にち：8月4日（月）

内 容：静岡富士山空港と石雲院の見学

時 間：10:00～12:30（9:30赤土、10:00プラザけやき南口出発）

持ち物：帽子、タオル、昼食または昼食代

日にち：8月19日（火）

内 容：流しそうめん

時 間：10:00～12:30（9:30 プラザけやき南口出発、10:00 赤土集合）

場 所：地域活動支援センターMネット（菊川市赤土 1660-1）

持ち物：材料費 200 円



コラム

精神科医療の風景：その1

わが国では昭和35年から45年頃、精神科病院の建設ラッシュがあった。県内でも各地で精神科病院が建てられたが、どここの病院も街はずれの田んぼの真ん中や山を切り開いた土地などで、周囲に民家らしき家並みはみられない場所が多かった。また精神科病院は、外観上も鉄格子あたり敷地内に畑のような空間があったりと、およそ病院というイメージを持たない風景であった。そのうえ地域の住民との交流もなく、精神科病院の中では、どんなことが行われているのかその内側は見ることのできない閉ざされた世界であった。

当時の精神科医療は、「安かろう・悪かろう」の時代で、畳敷きの大部屋に汚い布団が敷きつめられていた。病棟は、24時間入り口に鍵が掛かっている閉鎖病棟、朝から夕方までの時間だけ鍵を掛けずに自由に入出入りできる開放病棟があった。しかし開放病棟に入院している患者さんでも全てが自由であったわけではない。現金所持は禁止で、おやつ購入は病院の売店で伝票買いをするのであった。また、タバコの本数制限、所持品の制限、外出時間の制限など、数え上げたら切りがない。閉鎖病棟の場合は、それがより細かく制限されていた。例えば、タバコの銘柄や喫煙時間や本数の制限、入浴日と入浴時間の制限、爪切り・髭剃り・整髪料・ベルトなどは看護詰所で預かって使用時に看護師立ち合いのもとで使用可能というものであった。

そんな不自由な入院生活であったが不満を言う患者さんたちは少なかった。ただ入院して間もない患者さんは、無理やり入院させられたと、家族に対して怒りや不満を爆発させることもあったが、次第に落ち着いて、そういった要求も聞かれなくなる。家族の面会も少なく、年に1～2回あれば普通で、数年間病院に顔を見せない家族もあった。そんな当時の精神科病院の様々な風景を何回かに分けて紹介する。

